

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

①第三者評価機関名

NPO法人ナルク岐阜福祉調査センター

②事業者情報

| | |
|--------------------|---------------------------|
| 名 称：岐阜市立三輪北保育所 | 種別：保育所 |
| 代表者氏名：赤塚 美佐 | 定員（利用人数）： 21名 (定員) 20名 |
| 所 在 地： 岐阜市北野東345番地 | TEL 058-229-3160 |

③総 評

◇特に評価の高い点

施設、入所児童数

昭和52年4月1日、岐阜市立の保育所として設立された。木造瓦棒葺平屋建（685.36㎡）、37年経過しているが、建物はよく手入れされ平成28年3月耐震工事も完了し、児童たちは元気に保育室内外をとび回っている。当初は定員90人で開設されたが、平成以降少子高齢化のなか、地域の子育て世代の減少が続き、平成2年60人、平成21年45人、平成25年から20人の定員となり、現在は1歳児から5歳児までの子ども21人が入所している。所長以下保育士、調理員など7名の職員が、日々の業務に精励している。

3歳児から5歳児の13人には異年齢保育が実施されている。大きい子と小さい子が一緒に過ごす中で、憧れの気持ちや思いやりの気持ちを育む異年齢保育のメリットが十分生かされ、少人数の家庭的な保育が行われている。

○立地条件、周辺環境

保育所は岐阜市の北東部に位置する、緑豊かな山や田園に囲まれ、北にはファミリーパークがあり、南側は三輪北小学校と隣接している。一方で街の活性化の要因としての幹線道路の整備が進められ、東海環状道が2019年度には開通する予定となっている地域である。

○保育の基本方針、理念

岐阜市公立の保育所は統一した保育の理念・保育所の基本方針を掲げている。すべての乳幼児の幸せのために、子どもの主体性を尊重し人権を守ること、そして職員の専門性と人間性を高める中で愛情と信頼に満ちた環境の中で、子どもたちにとって最もふさわしい生活の場を提供すること、更には家庭での子育ての支援、地域での子育てを積極的に支援することを保育の理念とし、「子どもの最善の利益の保障」、「子どもにとって最もふさわしい生活の場の保障」、「家庭援助や地域における支援の積極的な推進」の3項目を定めている。

理念に基づく基本方針は、4項目から構成され「子どもの発達援助」では生きる力の基礎を育む

保育・教育の推進、「子育て支援」では子育て家庭の養育力の向上、「地域の住民や関係機関との連携」では子どもを核としたより良い地域との連携、「運営管理」では施設運営の質の向上を掲げている。更に各項目ごとに事細かに基本方針を推進するにあたっての取り組み方針を定めている。

○訪問調査の印象、特徴点

訪問当日は、好天に恵まれ柔らかい陽射しの中、早速年長組のリレー競技を見せてもらった。私たちが観戦していることもあってか、子どもたちは真剣にバトンをつなぎ、僅少差の勝負であった。敗れた組のアンカーは悔し涙を流していたのが印象的であった。

子どもの誕生月に開かれる誕生会には子どもの保護者、家族も参加しているのが特徴点としてあげられる。

自然に恵まれた立地条件にあり、散歩、園外遊び等で拾ってきた木の実や種が廊下に陳列されていた。それもただ陳列するだけでなく、実と種に分類し、それぞれに名前札をわかるように付け、関連する図鑑や絵本が添えられていて、詳しく知りたい子どもへのアプローチもされていた。因みに実と種は「おなもみ、おくら、ひのき、からすうり、おちゃ、じゅじゅだま、ぎんなん、くり、むくろじ、めたせこいや、しきみ、つばき、すぎ、あめりかんふー、かしわ（どんぐり）、くぬぎ（どんぐり）、まつぼっくり」等であった。

地域との関わりも深い、特に隣接している三輪北小学校は、校長先生、教頭先生、先生などが普段から気軽に声をかけてこられるようだ。4年生との「みのり交流会」、運動会には年長組が参加している。1・2年生との交流会、新1年生と遊ぶ会、小学生と一緒に田植えを経験したり、稲刈り、いも苗植え、芋掘りの見学もあった。

◇改善を求められる点

④第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受審することになり、保育所運営、保育の内容、環境の見直し等、職員全員で取り組むことができた。

各種マニュアルを見直し確認したり、評価項目に沿って話し合ったりしていく中、保育所の「課題」を認識し改善に向けて話し合ったり、またケース会議、ヒヤリハット、自己評価、所内公開保育などの所内研修を充実することで、職員一人一人の意識が高まり、「保育の質」の向上につながっていった。

今後とも三輪北保育所ならではの異年齢保育、家庭的な雰囲気大切に、一人一人の子どもの発達に応じた援助や、地域の方々や関係機関との連携をさらに充実させ、資質向上に努めていきたいと思えます。